



空き家再生したコミュニティハウス

喜入子育てコミュニティKADANは、その前身である子育てサークルや子育てサロン活動からの流れで立ち上がった任意団体です。会長である亀井愛子は、県外から嫁いできて周りに子育てについて相談援助してもらえない関係性のある親戚知人がなく、孤独な子育て(＝孤育て)で悩んだ経験から活動を始めました。"空き家を生かした「子ども百貨店」開店事業"も、その活動の流れのなかで約20年の歳月をかけて地域に根ざした活動の集大成とも言えます。

2004年5月から「てらこやマーケット」と称して、自主サークル主催で不要品の提供イベントを開始。毎年春と秋の2回の恒例イベントとして、地域の子育て世代を中心に根付いた活動となりました。

それから「喜入子育てコミュニティKADAN」という

## まちむら発見②

# 空き家を生かした「子ども百貨店」開店事業

鹿児島県鹿児島市 喜入子育てコミュニティ KADAN



「子ども百貨店」を常設運営

団体を立ち上げました。会長自身の「知らないが故の悩み。もっと地域を知ると案外悩みは解決していく」という経験で、活動の幅は世代を超えて地域も越えて活動の幅を広げていきました。それにより、「てらこやマーケット」は2016年5月から「KADANマルシェ」と名称を変更。会場も広い場所へ移行し、地域の飲食店や雑貨屋、エステサロンの協力も得てワンデイイベントとして年に2回開催を維持してきました。

イベントも大いに盛り上がり集客も見込める大きなものとなっていった矢先、新型コロナウイルス感染拡大により、今まで一日開催だった「KADANマルシェ」を中止。しかし本当に必要としている世帯向けに衣料品・日用品の無償提供部門のみを1週間開催することにしました。すると人の流れも品物の流れも非常に良くなり、活動の必要性をさらに実感しました。

2020年5月・10月KADANマルシェは名称を「喜入子ども百貨店」と変更し、トライアルを実施。2021年度は、「喜入子ども百貨店」を2回開催しま

した。「子ども百貨店」とは、「子ども食堂」になぞらえたもの。「子ども食堂」の定義は子どもひとりでも行ける食堂、つまり安価か無料であること。なので、「子ども百貨店」の提供品はすべて無料でやりとりを行うことにしました。

2021年度より、喜入校区社会福祉協議会の皆さんや、校区コミュニティ協議会の皆さんの協力を得られるようになり、ますます「子ども百貨店」の取り組みが地域に根ざし、広がり、必要とされる存在になっています。（※2021年5月20日〜25日開催の子ども百貨店には146組の親子が利用）

一方で、喜入子育てコミュニティKADANの活動拠点である善行寺駐車場に隣接する空き家が目にとまりました。長い間家財道具もそのままに放置され雨漏りも見られましたが、再生すれば利用可能ということを持ち主様へ事業説明し借り受けることになりました。

天井を剥がし構造を確認すると、床下の状態も良く、大工さんが丁寧に作った痕跡が見受けられました。空き家問題も地域課題として大きな問題となるなか、「子ども百貨店」を常設することで一石二鳥に双方の課題解決につながれないかと思ひ、地域の皆さんや空き家再生に興味のある方と一緒に取り組み始めました。コミュニティ大工の加藤潤さんを講師に数回のワークショップ形式でボランティアによるDIYで仕上げ。多くの方と活動に取り組むことにより、時には新聞掲載もあり、時にはテレビ番組取材も受けました。空き家を生かした「子ども百貨店」開店事業は開店前から多くの皆さんの応援をいただきました。



「もちよりカフェ」で歓談



ワークショップ形式でボランティアによるDIYで仕上げる

約1年の歳月をかけて空き家再生工事が終了。子ども百貨店設営もボランティアの力を借り、空き家再生したコミュニティハウス内に「子ども百貨店」を常設運営しています。ボランティアの協力によりできるだけ毎日10時〜14時は当番をおいて開所しています。お下がり物の受け渡し場所にとどまらず、今ではコミュニティハウスとして、いろいろな人やモノをつなぐという機能を果たしています。

提供品の中には家で眠っていた毛糸や布などの手芸用品もたくさん集まりました。古着などのリメイクもできたら面白いだろうとミシンを置いて「手作りコーナー」を設けました。またコピー機とWi-Fiを設置し、夜は学習支援にも利用できるようにしました。（現在では週3回数名の利用があり学習をサポートする大人のボランティアも常駐している）

また既存の施設をそのまま活かせるように皆が飲み物やお菓子を持ち寄ってゆっくり歓談できる「もちよりカフェ」もあります。

現在はコミュニティハウス内に、様々な機能を備え運営していることが評価され、地域内外から口コミで利用者が増えています。（オープンして1年で865名の利用がある）

行政や他地域からも視察に来られるなど、一つの事例として見ていただく機会が増えてきました。老若男女、本当に多くの方の憩いの場として、またそこで出会った方々が個々の問題解決へとつながる「ご縁作りの場」が完成したことに、今大いに達成感を感じています。

（喜入子育てコミュニティKADAN 会長 亀井愛子）